

機関番号：13701

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19500649

研究課題名（和文）アーミッシュシステムから見た現代社会のリスクマネジメント

研究課題名（英文）The risk management for modern societies from the analysis of Amish system

## 研究代表者

大藪 千穂 (OYABU CHIHO)

岐阜大学・教育学部・教授

研究者番号：10262742

研究成果の概要（和文）：本研究は、我々が持続可能な社会を確立していくために、アメリカ・カナダで300年来のライフスタイルを守り続け、安定的に成長しているアーミッシュシステムをモデルとして取り上げ、彼らのシステムと現代社会のシステムを比較検討し、特に情報のなかでも学校教育とFamily Life誌、廃棄、経済社会システムを分析することによって、持続可能な社会のために生活側面で必要なリスクマネジメントを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research focused on the risk management for modern society in order to establish the sustainable society. The analysis is made from the view points of information, environment, and economic and social system within Amish and modern society. Amish are people who maintain their own traditional lifestyle for more than 300 years in America and a part of Canada.

## 交付決定額

（金額単位：円）

|        | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2007年度 | 700,000   | 210,000 | 910,000   |
| 2008年度 | 1,200,000 | 360,000 | 1,560,000 |
| 2009年度 | 900,000   | 270,000 | 1,170,000 |
| 2010年度 | 400,000   | 120,000 | 520,000   |
| 年度     |           |         |           |
| 総計     | 3,200,000 | 960,000 | 4,160,000 |

研究分野：家政学・生活経済学

科研費の分科・細目：生活科学一般

キーワード：アーミッシュ、ライフスタイル、リスクマネジメント、情報、環境

## 1. 研究開始当初の背景

近代社会における経済発展や情報革命は、エネルギー問題や環境問題、情報問題、経済社会システムの脆弱化など、様々なリスクを表面化させた。このため、単に生産力や消費力を高めることや、過剰な情報提供は、豊かな生活には結び付かず、環境と共生するライフスタイルを獲得し、環境問題を解決するための行動を促す経済社会システム、廃棄システム、そしてそれらの行動を導く正確な情報提供と情報の有効活用を促す情報システム

の確立が緊要である。つまり、現在生じている、あるいは今後生じると考えられる様々な生活に内在するリスクに対処するためのリスクマネジメントが持続可能な社会を築くために重要であった。

## 2. 研究の目的

本研究は、我々が持続可能な社会を確立していくために、アメリカ・カナダで300年来のライフスタイルを守り続け、安定的に成長しているアーミッシュシステムをモデルと

して取り上げ、彼らのシステムと現代社会のシステムを比較検討し、特に情報、廃棄、経済社会システムを分析することによって、持続可能な社会のために生活側面でのようなリスクマネジメントが必要であるかを明らかにすることを目的としている。

### 3. 研究の方法

研究課題達成のため、現代社会が直面している情報、廃棄、経済社会システムに焦点をあてたリスクマネジメントの方法を、アーミッシュのシステムと比較する。

#### (1)アーミッシュの情報分析

情報を制限しているアーミッシュ社会における情報源である、学校教育における情報、アーミッシュ社会の情報誌である *Family Life* 誌と学校教師用の情報誌 *Blackboard Bulletin* 誌を分析する

#### (2)現代社会アメリカの情報分析

現代社会のアメリカの消費者情報誌として *Consumer Reports* 誌を分析し、現代の情報源の在り方を明らかにした。

#### (3)現代社会日本の廃棄システムの分析

日本の家庭と学校給食における廃棄に関する調査を実施し、現代社会の経済社会システムを含めた現状分析をおこなった。

### 4. 研究成果

本研究によって、アーミッシュ社会における特に情報によるリスクマネジメントが明らかとなった。

#### (1)教育における情報リスクマネジメント

アーミッシュ社会では、学校教育において、特に読み、書き、算数を主要な教科としているが、それらの教科を繰り返し教育することによって、消費者教育の視点を加えており、現代社会であるアメリカ社会で生活できるようにアーミッシュの子ども達を教育している。それは、学校教育のみならず、アーミッシュの家庭教育でも同様であることが、*Family Life* 誌の分析と学校教育の教科書分析から明らかとなった。また、学校の教員用の雑誌 *Blackboard Bulletin* 誌の分析からも明らかとなった。一方、現代社会のアメリカにおいては、情報量が多く、消費者が生活にそれらの情報を活用できていないことが、*Consumer Reports* 誌の分析結果から明らかとなった。

#### (2)廃棄システムからみたリスクマネジメント

アーミッシュ社会では、一般の廃棄物処理はアメリカ社会に依存している。しかし、家庭ごみの特に生ごみに関しては、各家庭でコンポスト等で処理している。一方、現代社会では、ごみの中でも生ごみの資源化率が最も低く、いかに生ごみを削減するかが問題とな

っている。このため、日本の家庭 500 世帯のごみ調査と学校の給食の残滓調査を実施したところ、廃棄量が多く、ごみ処理の大きな課題となっていることが明らかとなった。

#### (3)アーミッシュシステムからみた現代社会のリスクマネジメント

アーミッシュ社会は、電気を使わないことで、情報をかなりコントロールしている。しかし、アメリカ社会で生活をしていかなければならない。このため、学校教育と家庭教育において、情報の取捨選択を行いながらも、基礎教育を重視することで、様々なリスクに対応できる「生活知」を獲得していることが明らかとなった。この方法は、現在の情報化社会の中で、リスクに対応する能力が薄れている我々が、教育の在り方を再考し、導入することができる方法といえる。

#### (4)今後の展望

本研究では、文献による調査が主となったが、今後は、アーミッシュの人々自身が実際に何を考え、持続可能な社会の構築に寄与しているのかが分かれば、よりアーミッシュシステムのリスクマネジメントが明らかになると考えられる。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 13 件)

①大藪千穂, 雑誌 *Family Life* の” Problem Corner” からみたアーミッシュの内的世界, 名古屋経済大学研究所報, 32, pp. 43-57, 2010、無

②大藪千穂・杉原利治, 家庭のマテリアルフローからみたごみ減量と消費者教育, 消費者教育, Vol. 30, pp. 97-106, 2010、有

③大藪千穂・杉原利治, 人間発達の視点からみた *Family Life* 誌の「学習コーナー」の分析～アーミッシュの家庭教育と消費者教育～, 日本消費者教育学会中部支部 中部消費者教育論集, pp. 1-11, 2010、有

④大藪千穂, 家庭経済教育における計算的内容の充実に関する研究, 平成 21 年度科学研究費補助金, 基盤研究(C)20500648, 2010、無

⑤大藪千穂, 暮らしを大切にするための節約生活, 24-30, .PHP 増刊号, 7 月, PHP 研究所, 2010、無

⑥大藪千穂, アーミッシュのライフスタイルから学べること, 十六銀行法人営業部経済月報 10, 8-11, 2010、無

⑦Oyabu C., Sugihara T., An Analysis of “Blackboard Bulletin” from the view of Human Development, 中部消費者教育論集, 5, 1-15, 2009、有

⑧大藪千穂・杉原利治, 学校給食の残滓分析

と消費者教育の可能性、消費者教育、29、229-238、2009、有

⑨大藪千穂・杉原利治、Consumer Reports における消費者情報分析 2.1960 年代の消費者情報、日本家政学会誌、60(7)、617-628、2009、有

⑩大藪千穂・杉原利治、学校給食の残滓、日本家政学会誌、59(8)、621-630、2008、有

⑪大藪千穂・杉原利治、アーミッシュ家庭誌 Family Life のレシピ分析、日本家政学会誌、58(10)、645-654、2007、有

⑫大藪千穂・杉原利治・後藤尚弘、消費者の情報活動と家庭ごみの減量、消費者教育、27、53-62、2007、有

⑬大藪千穂・高松一恵・杉原利治、アーミッシュの教科書分析 5. Reader の教科書分析(1)、岐阜大学教育学部研究報告教育実践研究、9、77-94、2007、無

〔学会発表〕(計 7 件)

①大藪千穂・杉原利治、日本家政学会第 62 回大会、Consumer Reports の消費者情報分析(4)1970 年代の消費者情報、2010 年 5 月 30 日、広島大学

②大藪千穂・大谷英梨子・杉原利治、アーミッシュの消費者教育(1)算数の教科書分析、日本消費者教育学会第 30 回大会、2010 年 10 月 10 日、東京首都大学

③大藪千穂・杉原利治、家庭のマテリアル・フローからみたごみの減量と消費者教育、日本消費者教育学会第 29 回大会、2009 年 10 月 11 日、長崎大学

④Oyabu C., The Development of Indicators for Enriched Life, Asian Consumer and Family Economics Association, 2009. 7. 4, セントコア山口

⑤大藪千穂・杉原利治、Consumer Reports の消費者情報分析(3)2000~2005 年の消費者情報、日本家政学会第 61 回大会、2009 年 8 月 31 日、武庫川女子大学

⑥大藪千穂・杉原利治、学校給食の残滓と消費者教育の可能性、日本消費者教育学会第 28 回大会、2008 年 10 月 12 日、かでの 2・7

⑦Oyabu C., Sugihara T., Perspectives of a sustainable society through the traditional way of their dietary life of the Amish-The analysis of recipes in the Amish magazine -, XX1th IFHE Congress, Lucerne, 2008. 7. 31, Switzerland,

〔図書〕(計 4 件)

①大藪千穂(分担執筆)、(社)日本家政学会生活経営学部会編、住民参加による河川環境保全と生活ガバナンス、129-136、暮らしをつくりかえる生活経営力、朝倉書店、2010

②大藪千穂・小木紀之、財団法人日本産業協

会、消費者問題 行政問題、2009 年、6-101

③杉原利治・大藪千穂翻訳、論創社、アーミッシュの昨日・今日・明日、2009 年、158

④大藪千穂、財団法人放送大学教育振興会、仕事・所得と資産選択、2008 年、1-207

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

なし

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計 件)

なし

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

講演と展覧会の開催

講演 11 件

①大藪千穂、「日本の学校給食と環境問題」講演、大阪大学工学研究科(科学技術と社会の関係に関する講演) 大阪大学吹田キャンパス、2011 年 3 月 7 日

②大藪千穂、「高齢者世帯の家計」、一宮市尾西市役所、2010 年 11 月 25 日

③大藪千穂、「アーミッシュのライフスタイルから現代社会を考える」、名城大学経済学部公開講座、2010 年 11 月 18 日

④杉原利治、「アーミッシュと現代社会～社会システムの持続可能性を考える～」西宮市立東高校木曜講座、西宮市立東高校、2010 年 11 月 4 日

⑤大藪千穂、「アーミッシュのライフスタイル」、西宮市立東高校木曜講座、西宮市立東高校、2010 年 10 月 21 日

⑥杉原利治・大藪千穂、アーミッシュという生き方、国際染色美術館、北海道旭川市、2009

年 9 月 27 日

⑦ 杉原利治・大藪千穂、アーミッシュという  
生き方、思文閣美術館、京都市、2009 年 7  
月 12 日

⑧ 大藪千穂、アーミッシュにおける生活と協  
働、国際研究フォーラム、国立民族学博物館、  
2009 年 6 月 21 日

⑨ 大藪千穂、オルタナティブ教育と時のデザ  
インー現代アメリカにおけるアーミッシュ  
という生き方ー、国際研究フォーラム、国立  
民族学博物館、2009 年 3 月 1 日、立命館大  
学

⑩ 大藪千穂、「アーミッシュから現代社会を  
考える」講演、大阪大学工学研究科(科学技術  
と社会の関係に関する講演) 大阪大学吹田  
キャンパス、2009 年 2 月 28 日

⑪ 大藪千穂、第一生命消費者問題研究会  
「アーミッシュのライフスタイルから持続  
可能な社会のためのライフスタイルを考え  
る」、第一生命、2008 年 6 月 24 日

展覧会 2 件

① 杉原利治・大藪千穂 企画・監修、Plain  
People アーミッシュの生き方展、国際染色  
美術館、北海道旭川市、2009 年 9 月 19 日～  
10 月 18 日

② 杉原利治・大藪千穂 企画・監修、Plain  
People アーミッシュの生き方展、思文閣美  
術館、京都市、2009 年 5 月 2 日～8 月 2 日

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

大藪 千穂 (OYABU CHIHO)

岐阜大学・教育学部・

教授

研究者番号：10262742

### (2) 研究分担者

杉原 利治 (SUGIHARA TOSHIHARU)

岐阜大学・教育学部・教授

研究者番号：70092939

### (3) 連携研究者 なし

( )

研究者番号：